

第70回全日本実業団バドミントン選手権大会出場割当

令和2年3月1日
日本実業団バドミントン連盟

[1] 出場割当数

地区 ブロック	支部名	2019年度 登録数	出場割当数		
			基本数	追加数	合計
北海道	北海道	14	1	2	3
東北 8 27	青森	1	1	0	1
	岩手	2	1	0	1
	宮城	18	1	2	3
	秋田	1	1	0	1
	山形	2	1	0	1
	福島	3	1	0	1
関東 29 158	茨城	7	1	1	2
	栃木	9	1	1	2
	群馬	7	1	1	2
	埼玉	15	1	2	3
	千葉	8	1	1	2
	東京	72	1	10	11
	神奈川	40	1	5	6
	山梨	未登録	1	0	1
北信越 10 44	新潟	9	1	1	2
	長野	2	1	0	1
	富山	14	1	2	3
	石川	12	1	1	2
	福井	7	1	1	2
東海 10 55	静岡	1	1	0	1
	愛知	31	1	4	5
	三重	19	1	2	3
	岐阜	4	1	0	1

地区 ブロック	支部名	2019年度 登録数	出場割当数		
			基本数	追加数	合計
近畿 17 82	滋賀	未登録	1	0	1
	京都	15	1	2	3
	大阪	45	1	6	7
	兵庫	21	1	3	4
	奈良	1	1	0	1
	和歌山	未登録	1	0	1
中国 9 35	鳥取	2	1	0	1
	島根	1	1	0	1
	岡山	10	1	1	2
	広島	14	1	2	3
	山口	8	1	1	2
四国 6 27	香川	12	1	1	2
	徳島	4	1	0	1
	愛媛	9	1	1	2
	高知	2	1	0	1
九州 11 27	福岡	21	1	3	4
	佐賀	1	1	0	1
	長崎	2	1	0	1
	熊本	1	1	0	1
	大分	未登録	1	0	1
	宮崎	未登録	1	0	1
	鹿児島	1	1	0	1
	沖縄	1	1	0	1
総合計		469	46	56	102

- (注1) 2019年度登録数は、2020年2月2日現在
 (注2) 出場割当数は日本実業団バドミントン連盟規約細則による
 (注3) 男子と女子の割当数は、同数とする
 (注4) 各地区ブロックには、右の特別枠(男女共)を割り当てる
 (注5) 開催地ブロックは、特別割当数とする

[2] 地区ブロック特別枠

北海道	4	東海	8	九州	5
東北	4	近畿	12	合計	74
関東	25	中国	6		
北信越	6	四国	4		

[2] 推薦チーム(69回大会結果)

【男子の部】

優勝	日本ユニシス(東京都)
準優勝	NTT東日本(東京都)
3位	日立情報通信エンジニアリング(神奈川県)
3位	トナミ運輸(富山県)
ベスト8	丸杉(岐阜県)
ベスト8	三菱自動車京都(京都府)
ベスト8	東北マークス(宮城県)
ベスト8	コンサドーレ(北海道)
ベスト16	Shuttle&Sons(埼玉県)
ベスト16	大同特殊鋼(愛知県)
ベスト16	JR北海道(北海道)
ベスト16	金沢学院クラブ(石川県)
ベスト16	VERTEX(新潟県)
ベスト16	東海興業(愛知県)
ベスト16	トヨタ自動車(愛知県)
ベスト16	宇部興産(山口県)

【女子の部】

優勝	再春館製薬所(熊本県)
準優勝	日本ユニシス(東京都)
3位	ヨネックス(東京都)
3位	NTT東日本(東京都)
ベスト8	アメリカンペイブ岐阜(岐阜県)
ベスト8	北都銀行(秋田県)
ベスト8	日立化成(茨城県)
ベスト8	七十七銀行(宮城県)
ベスト16	Cheerful鳥取(鳥取県)
ベスト16	ACTSAIKYO(山口県)
ベスト16	広島ガス(広島県)
ベスト16	百十四銀行(香川県)
ベスト16	東海興業(愛知県)
ベスト16	PLENTY GLOBAL LINX(大阪府)
ベスト16	丸杉(岐阜県)
ベスト16	山陰合同銀行(島根県)